まち、ひと、湯前の元気と魅力を届ける［広報ゆのまえ］
yunomae 02
2017.FEB
Vol.428
球磨人吉10市町村による合同特集
家族をつなぐ
ふるさとの味
いただきますっ！
EDWIN

球磨郡市広報紙研究協議会合同特集

家族をつなぐふるさとの味

この特集は、人吉市・錦町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村・あさぎり町の広報担当者が協力して作りました。

あなたにとってふるさとの味は何ですか？
人吉球磨地域では、この地域の風土とこの地に住む人たちの知恵で、多くの郷土料理が生まれ、受け継がれてきました。食の多様化が進み、郷土の家庭料理を食べる機会が減った現代、ふるさとの味を守り続けるために、私たちができることを考えます。

家族で食卓を囲む川内さん一家（山江村）と郷土の家庭料理（下写真）

ふるさとの味「郷土料理」

「郷土料理」とは、地域の産物を使って独自の調理法で作り、伝承された特別な料理と思う人がほとんどではないでしょうか？ しかし、郷土料理は特別な料理だけではありません。昔から家で作り、普段の食卓に並べられた家庭料理も「郷土料理」です。私たちを育ててくれた郷土料理は、昔から伝わる大切なふるさとの味なのです。

郷土料理と風土

人吉球磨地域は、日本三急流の一つ「球磨川」が流れ、九州山地の山々に囲まれた盆地です。昔からこの地域では、盆地特有の寒暖差の激しい気候を生かして農業が盛んに行われていて、産物の種類も豊富。米や小麦のほか、キノコなどの山の幸や球磨川で捕れるアユなどの川の幸にも恵まれています。

この地では豊かな産物を使って、栄養バランスや保存方法を考えた多様な郷土料理が作られています。豊富にとれる米を使った球磨焼酎もその一つです。

地域特有の食べ物

私たちになじみのある食べ物で、実は人吉球磨でしか食べられていない物がたくさんあります。その中の一つが「酢だこ」です。近くに海がないこの地域で海の物を食べるため、保存が効くようにタコを酢漬けにしたもので、今も正月のおせち料理に欠かせません。

広範囲にわたる人吉球磨地域では、特徴的な料理や食べ物が地域によって違います。上球磨地域ではブタやイノシシの骨に付いた肉を食べる「骨かじり」がよく食べられます。中球磨地域は、約400年前に活躍した剣豪・丸目蔵人佐（まるめくらんどのすけ）がくじら鍋を村人に振る舞ったことから今でも「皮クジラ」を料理に使用。下球磨地域は、五木村の「そば料理」や、相良村の「四浦こんにゃく」が有名です。地域全体の郷土料理である「つぼん汁」と「煮しめ」も、各地域で具材や切り方が少しずつ異なります。

消えつつある郷土料理

昔から伝わる郷土料理ですが、洋食化や外食産業の発展、インスタント食品の普及など、日本の食文化が変わったことで郷土料理を食べる機会が減少しています。家族で台所に立つことも少なく、ふるさとの味を引き継ぐ機会も減り、何がふるさとの味なのか分からない若者も多くなってきています。

昔から受け継がれる大切なふるさとの味を守るために、私たちができることは何があるのでしょうか？ 次のページから、人吉球磨地域で日ごろから食べられ、受け継がれてきたふるさとの味「郷土の家庭料理」の魅力と伝承に焦点をあてて詳しく紹介します。

栗豆腐

なます

米麹（こめこうじ）料理

つぼん汁

骨かじり

一勝地まんじゅう

五木そば

柚餅子（ゆべし）

いでだご

ふるさとの食の味力

先人たちの知恵で生まれ伝え続けられた「郷土の家庭料理」。
その味には、私たちが元気に育つ力がたっぷり入っています。

INTERVIEW

人吉球磨の伝統食を伝え広める本田さんに郷土の家庭料理の魅力を聞きました。

郷土の家庭料理 ひまわり亭
代表 本田 節 さん

昭和29年生まれ。球磨郡相良村の農家で育つ。人吉高校卒業後、地元の農協に就職。結婚後、3人の娘を育てながら夫の建設設計事務所をサポート。現在は、農家レストラン「郷土の家庭料理ひまわり亭」の代表を務める傍ら、食を通したまちづくりアドバイザーとして全国を飛び回っている。

祈りを込めた食文化

相良700年の歴史ある人吉球磨で先人たちが独自に作り守ってきた食文化の価値は高いと考えます。地域のお母さんたちの知恵と風土に合った地域の食材でつないできたこの食文化。それが脈々と受け継がれていることがとても魅力的です。

三十三観音めぐりのように人吉球磨は祈りの文化が深い地域。この地域は、子どもを思い作ったおやつなど、相手を思って作られた料理が多いことが特徴です。成長を願って作られた「あん入りちまき」は、すくすくと伸びる竹のように長く作られていて、包装にも竹の皮が使われています。全ての食に祈りが込められていて、人吉球磨の根底に祈りがあることを物語っています。

店では食べられない郷土食

熊本地震で、当たり前の食卓の大切さにあらためて気付かされました。食卓を囲んだコミュニティーがとても重要だということも。食事は、誰のために料理を作るのか、誰と食べるのかということがとても大切です。自分の愛する家族や仲間と囲む食卓には会話があり、作った人の思いが込められた料理が並ぶ。その雰囲気と思いが食として体に入り、血や肉になるのです。

地元を離れ「ばあちゃんが作ってくれたまぜ飯はおいしかった」「お盆には煮しめがあって、正月には酢だこがあった」など思い返すことが郷土愛だと思います。家庭料理は家庭や地域への愛情そのもので、お店で食べることはできません。家族愛や地域愛、人間愛、そういうものが家庭の食卓の中にはあります。それが質素であっても「おいしい」と思える理由です。

郷土料理を見直す

昔は晴れの日にはごちそうを作っていましたが、普段の食事は質素でした。今は食が豊か過ぎて、がんや糖尿病などの生活習慣病になる人が増えています。食材が24時間どこでも手に入る現代、消費者は選択肢が多過ぎて本当に体に良い物が何か分からなくなっています。コンビニやスーパーがない時代、しょうゆやみそは我が家で作るしかありませんでした。今はお金を出せば手に入り、健康面より安ければ良いと考える人もいます。郷土の家庭料理は栄養面も優れています。食にもっと関心を持ち、先人たちの知恵が詰まった郷土の家庭料理を見直してほしいです。

郷土料理を伝えていく

地域のつながりが強かった昔と違い、今は人のつながりが疎遠になっています。郷土の家庭料理も受け継がれることが難しくなってきました。そこで、先人が作った家庭料理を記録に残しながら次世代に伝えていく活動をしています。食文化は、昔ながらの家庭料理の良さに新時代のライフスタイルに合ったものを少しずつプラスしていかないと伝わっていきません。ふるさとの味を若い世代につなげる学習会を、これからもどんどん企画していきたいです。

一皿に込めた、お母さんたちの知恵と愛情

郷土の家庭料理を作り、伝え続けるふるさとのお母さんたちがいます。

農家民宿「くりの里」
牧山 規矩子さん

我が家の味を子どもたちに

農家民宿を営む牧山規矩子さん（相良村）。村の「食生活改善推進員（※1）」や、「ふるさと食の名人（※2）」として、22年間「食」のボランティア活動を続けています。

郷土の食文化が薄れてきている今、親子や高校生など幅広い年代に料理教室を開き、県内で広く活動している牧山さん。「高度経済成長期から、女性も外で働く時代に。だからこそ、子どものころに料理を教わることができず、郷土の家庭料理を知らないまま育った人がたくさんいます。そういった人たちに我が家の味を持ってもらい、子どもたちに振る舞ってほしいです」と活動の背景を話します。

無添加で温かみのある物を

牧山さんが取材に合わせて、郷土のおやつ「ねったくりだご」を作ってくれました。簡単で早くできるねったくりだごは、昔から伝わるおやつです。作り方は、小麦粉ともち米粉を練り、湯がいてあんこや黒砂糖をまぶすだけ。昔は行事食として「あん入りちまき」をよく作っていて、その間に子どもたちにねったくりだごを作らせていたそうです。

「昔のお母さんはみんなが『食の名人』。簡単に食べ物が手に入る時代になりましたが、手作りで温かみのある郷土の家庭料理も食卓に並べてほしいですね」と語る牧山さん。昔からお金を掛けずに、身近にあるもので工夫して作ってきた家庭の味を後生に残していきます。

▲農作業のよけまん（休憩時のおやつ）にも食べられた「ねったくりだご」

家庭の味の原点

地元で採れた農産物を使った料理の提供や加工販売を行う「くまむら農産加工グループあじさい」。会長の大無田トミ子さん（球磨村）は、「ふるさと食の名人（※2）」としても郷土料理の普及と継承に貢献しています。

幼少期から料理に興味があった大無田さんは、大人たちの会話を聞いて料理の作り方を習得。その後就職し食材宅配をしていたときに、配達先の地元の方に教えてもらった家庭の味が大無田さんの料理の原点になっています。

自然が育んだ急流煮しめ

地元の食材を使った球磨村の家庭料理「急流煮しめ」。料理名は、球磨村で球磨川の流れが一番速くなるため、激流に流されない巨石に見立てて具材を大きくしていることから付けられています。

「昔はどこの家でも煮しめが作ってあり、誰が来てもいつ行っても、食卓に並んでいました。作り方は、冠婚葬祭のときなどに地元の人から教えてもらい地域の味を学びました」。大無田さんは、地元の人から教わった味を継承するため、煮しめ作り体験などを通じて若い世代へ料理の普及も行っています。

「村の人たちから教えてもらったことの恩返しとして、素材を生かした昔ながらの田舎料理でお客さんのおもてなしをしていきたいです」。大無田さんは、温かい人柄で家庭料理の味だけではなく、その中に込められた愛情をこれからも伝え続けていきます。

▲地元の食材をふんだんに使い、大きな具材が特徴の「急流煮しめ」

くまむら農産加工グループあじさい
会長 大無田 トミ子さん

※１「食」を通して健康づくりを推進するボランティア。
※２ 郷土料理などについて知識や経験を持ち、伝承活動などに取り組む県が認定する人。

ふるさとの食の味来（みらい）

深い愛情が込められた郷土料理を未来に残すため、郷土愛を育むために南稜高校で取り組まれている授業を紹介します。

衣食住のプロを育成

あさぎり町の県立南稜高校では、本年度から文部科学省の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の指定を受け、社会の第一線で活躍する衣食住のプロの育成に取り組んでいます。「食」の分野では「郷土料理講習会」の授業化や地域野菜、シカ・イノシシ肉を使った商品開発、マーケティングなどさまざまな取り組みに挑戦しています。

「ふるさとの良さ」を実感

同高校の生活経営科では、「故郷の味を再発見」を目標に郷土料理の授業を年10回以上実施。同科の3年生22人は「くまもとふるさと食の名人」の本村イサ子さん（あさぎり町）から料理を習っています。

9月12日に行われた実習の献立は、山菜おこわとつぼん汁、切り干し大根の酢の物、ねったんぼ、あん入りちまきの5品。テーブルには、山菜やニンジン、カボスなど色とりどりの地元食材が並びました。

「山菜おこわは、みりんの代わりに赤酒を使って仕上げる」「球磨地方では端午の節句に、子どもがすくすくと育つようにあん入りのちまきを作る」「タケノコの皮は抗菌作用があり、包装紙代わりに使う」。本村さんは笑顔を交えながら生徒に先人の知恵を伝授。生徒たちは、本村さんの話や手つきからふるさとの味を学びました。作った料理は、本村さんと生徒たちが一緒に料理の出来を話しながら食べました。

郡市内外に進学・就職を控える3年生。この実習は、生徒にとって「ふるさとの良さ」を学ぶ機会になっています。

▲本村さんが料理の技を生徒に伝授

INTERVIEW　郷土の家庭料理を教える本村さんと教わった高校生に話を聞きました。

くまもとふるさと食の名人
本村 イサ子さん

地元の「宝」を大切にしてほしい

私は農家の家に生まれ、農作業をしながらその農産物を使った料理を作り続けてきました。今は自宅で米麹（こめこうじ）やユズなどを使った加工品を手がけ、地元の物産館にも出品しています。

郷土料理を通して生徒の皆さんに「地元にある財産」を知ってほしいと思い、10年以上前から南稜高校の生徒に料理を教えています。実習後に生徒たちからイラスト入りの感想文をもらいますが、「家でも作ってみたい」などと書いてあり、毎年やりがいを感じています。

進路はそれぞれだと思いますが、どこに行ってもふるさとを大切にしてほしいですね。将来子どもができたとき、「ふるさとにはこんな料理もあるんだよ」と料理を伝えてくれたらうれしいです。

南稜高校生活経営科３年
荒川 蓮菜（れんな）さん（あさぎり町）

郷土料理を勉強して次の世代につなげたい

母と一緒にお菓子作りをしていて料理に興味を持つようになりました。保育園のころから母や祖母に料理を教わり、小学校5年生のころには母が仕事で遅くなるときは夕食を作っていました。初めは上手に作れませんでしたが、「おいしい」と言われるのがうれしくてさらに料理好きに！ 高校は料理が学べる南稜高校に進学しました。

高校卒業後は愛知県で調理関係の仕事に就きます。将来はお菓子屋さんとして自分の店を持つのが目標です。今日作った「つぼん汁」は家族みんな大好き。ふるさとを離れますが今回の実習を通して、昔から受け継がれる郷土料理をしっかり勉強し、次の世代につなげたいと思います。

愛の詰まった「家庭の味」がそれぞれの「郷土料理」

緑豊かな自然、清らかに流れる球磨川。私たちはこの場所に住む動物や植物の命をいただいて命をつないでいます。

地域に伝わる郷土料理は、時代の流れとともに食べる機会が減り、郷土料理が何なのか分からない人もたくさんいます。郷土料理は特別なものではありません。農作業の合間にすぐ食べられる「やきだご」や夏場の暑さを和らげ栄養も摂れる「冷汁」など、昔から食べる人を思った料理がたくさんあります。見た目や味、栄養などいろいろな工夫を凝らして作られた全ての料理は、地域の郷土料理として、また、家庭の味としてそれぞれの家で受け継がれてきました。

たとえこの地を離れても、私たちを育ててくれた愛の詰まった料理を思うことで「あの味が恋しい」「ふるさとに帰りたい」という気持ちにさせる郷土愛にもつながります。私たち一人一人が家庭の味に誇りを持ち、次世代につなぐことで、この地域の大切な味と魅力がずっと未来に受け継がれていくはずです。

一緒に料理を楽しむ柿山順子（かきやまじゅんこ）さんと孫の千里（ちり）さん（多良木町）

人吉球磨の家庭料理のレシピ本販売中！

人吉球磨 肥後さがら路のおごちそう

販売場所　清藤書店（人吉市五日町５）、町屋ギャラリー立山（人吉市中青井町311）、樹想館（きそうかん）（人吉市鶴田町31－６）
料　金　800円
問合せ　ふるさとの食 指南書作成委員会 会長 山上 日出世さん（☎２３－５５７６）

ムラのかあさんレシピ集

販売場所
ひまわり亭（人吉市矢黒町1880－２）
料　金　1,000円
問合せ　郷土の家庭料理 ひまわり亭（☎２２－１０４４）

No.1

第67回湯前町成人式
植林で仲間との思い出きざむ

クワを持ち、ジャージ姿で記念撮影をする成人たち

第67回湯前町成人式は1月4日、元湯芽科房駐車場一帯で開かれ、町内外に進学・就職した新成人34人が集まり、植林で仲間との思い出をきざみました。

式典には多くの地域住民が駆けつけて新成人を温かく歓迎。新成人を代表して工藤祐二さん（20＝中里1）が「私たちが成人の日を迎えることができたのはたくさんの地域の人のおかげ。社会人としての義務や権利を自覚しながら、積極的に社会参加をしていきたい」と答辞、林愛実さん（20＝下城）が交通安全宣言をしました。中学時代の恩師二人も駆けつけ、「仲間や地域とのきずなをずっと大切に」「失敗を恐れず何事にもチャレンジして」などとエール。新成人たちには、町から球磨焼酎、地域婦人会から湯楽里の温泉入浴券が贈られました。

記念植林は湯楽里コテージ下の町有林で行われました。新成人はクワを使い、ヤマザクラなど4種類170本を友人や地域の人と一緒に植林。久しぶりに再会した仲間と楽しく会話をして、笑顔で成人の思い出をつくっていました。植林後、参加者は地域婦人会が振る舞うぜんざいで体を温めていました。

成人の誓いをした工藤祐二さん

仲間と協力しながら笑顔で植林

interview

本山 真太郎さん
（福岡大2年＝上里3）

「今日植えた木が将来大きくなっていたらうれしいです。いろんなことに挑戦して、社会での経験を積み、立派な成人になりたいです。公務員を目指しているのですが、まずはきちんと卒業できるように、勉強を頑張って単位をしっかりとりたいと思います」

下田 かおりさん
（熊本尚絅短期大学2年＝上里3）

「ことし4月からあさぎり町の保育園に就職します。久しぶりに会えた友達と中学校のころの話ができて楽しかったです。音楽を趣味としてやっているのですが、それ以外にもスポーツなどたくさん趣味を増やして、保育士として子どもたちにいろんな分野で寄り添えるようになりたいと思います」

No.2 消防団出初式・放水競技大会

4分団1部（上村）V5、上消連は準V
ポンプ車は2分団1部（上染田）

元気な通常点検を披露した幼年消防団（慈光子ども園）

湯前代表として出場し、上消連で2位となった第2分団第1部

上消連で昨年の優勝に引き続き、2位の好成績をおさめた第4分団第1部

平成29年湯前町消防団出初式・放水競技大会は1月5日に湯前小学校グラウンド一帯で開かれ、131人の団員が参加しました。放水競技大会では小型ポンプの部で第4分団第1部（上村）が5連覇を達成、自動車ポンプの部では第2分団第1部（上下染田）が優勝。両部は1月11日に多良木町多目的総合グラウンドで開かれた平成29年上球磨消防団連合会放水競技大会でも準優勝に輝きました。

本町の放水競技大会にはポンプ車の部に2チーム、小型ポンプの部に11チームが出場しました。小型ポンプの部では第4分団第1部が現着、出水、落球すべてで最速タイムを記録し、昨年の総合成績を5秒04縮める1分55秒70のタイムで5連覇を達成。ポンプ車の部に出場した第2分団第1部は2分16秒15のタイムで優勝しました。

式典では団員の分列行進や通常点検、湯前保育園、慈光子ども園の年長児たちによる通常点検も披露されました。

優勝した2チームと小型ポンプの部準優勝の第3分団第4部（田上）は上消連放水競技大会に出場。管内4町村の代表8チームが出場した小型ポンプの部では第4分団第1部が総合成績2分03秒66のタイムで準優勝、3チームが出場したポンプ車の部で第2分団第1部が2位につけるなど健闘しました。

〈放水競技〉

▼小型ポンプの部
①第4分団第1部（上村）
②第3分団第4部（田上）
③第4分団第4部（瀬戸口）

▼自動車ポンプの部
①第2分団第1部（上下染田）

〈年間総合成績〉
①第2分団第1部（上下染田）
②第2分団第4部（下城）
③第3分団第3部（野中田）

〈熊本県消防協会功績章〉
（20年以上勤続者）
○栗原　礼 団員（第1分団第1部）
○森下 博文 団員（第1分団第2部）
○菊川 克祐 団員（第2分団第1部）
○権頭 正勝 部長（第3分団第1部）
○山崎 盛光 団員（第3分団第3部）
○植木圭一郎団員（第3分団第3部）
○山口　豊 団員（第4分団第2部）
○岩野 浩平 部長（第4分団第4部）

〈上消連放水競技〉

▼小型ポンプの部
①水上村
②湯前町（第4分団第1部）
③水上村
⑦第3分団第4部（田上）

▼自動車ポンプの部
①水上村
②湯前町（第2分団第1部）
③多良木町

湯前町初の箱根駅伝出場を果たした
太田黒 卓さん（上武大２年＝植木）

短く感じるほどに楽しかった初めての箱根。来年は他大学エースと渡り合える実力を身につけ、シード権をつかみたい―。

湯前初の箱根ランナー

大学３大駅伝の一つで正月の風物詩。「第93回箱根駅伝」が１月２、３日に東京都から神奈川県箱根を往復する10区間（217.1㌔）で開かれた。学生駅伝の頂点を競う大舞台に太田黒卓さんが出場。本町初の箱根ランナーは３区21.4㌔を区間10位となる１時間04分44秒で走りきった。

箱根駅伝は関東学連加盟大学のうち、前年大会でシード権を獲得した10校と、予選会を通過した10校、関東学生連合の計21チームが出場する。上武大は予選会を６位で通過し９年連続となる９回目の出場を決めた。夏から調子を上げていた太田黒さん。予選会でもチーム内３位（総合30位）の成績を記録し、11月に監督から箱根出場が告げられた。

３区は坂を下って海ぞいを走るコース。前半10㌔のペースを抑え、後半からギアをあげた。目標タイムは１時間04分50秒。太田黒さんは目標から６秒縮め、二人を抜いた。「前には追いかける選手がいて、沿道からは途切れることのない応援をもらった。予選会は緊張したが、箱根はあっという間。楽しかった」。太田黒さんは大舞台でも気後れせず、大きく崩れないという自分の持ち味を発揮した。「同級生の寄せ書き入りのたすきや地元の人の応援メッセージが力になった」。地元からもたくさんの声援が届いた。

体に対する意識の変化

太田黒さんは大学１年時にも箱根７区に出場するはずだったが、エントリー直前にすねを疲労骨折した。「自分の責任と割り切ったが、箱根を走るほかの選手を見て悔しさがこみ上げた」。この怪我で体に対する意識が変わった。練習前後の入念なセルフケアや病院での定期的なチェックを欠かさなくなり、メンタルトレーニングなどの鍛錬も積んだ。「高校時代は目先のことだけを考えていたが、大学では一番大きな目標に向けた調整ができるようになった」。準備にぬかりはない。「磨くのもなまけるのも自分次第。これだけやると決めて練習している」。中・高校時代、地元で培ってきたひたむきな努力は今も健在だ。

エースたちと渡り合える実力を

上武大では各学年二人ずつが集まり部の方針を決めていて、太田黒さんは昨年４月からその代表になった。「大きな大会が近づくと主力とそれ以外の選手に分かれて練習することも多く、気持ちにばらつきが生じやすくなる。箱根駅伝のコースマップをみんなで作ったりして、チームが高い意識を持てるようになった」。中心選手として全体を引っ張っていく役目も担っている。

来年はエースたちがしのぎをけずる「花の２区」への出場にも期待が高まる。「他大学のエースたちと渡り合える力をつけて大学初のシード権獲得を目指す。まずはトラック５千㍍で13分台、１万㍍で28分台を出したい。走りでチームを引っ張れれば」と笑顔で話した。湯前を離れ、遠くの地で頑張る太田黒さんの今後に、ますます目が離せない。

16位でたすきを受け、二人を抜く走りをみせた太田黒さん。その活躍もあり、上武大は往路を８位で折り返した（写真＝上武大提供）

Profile：おおたぐろ　すぐる

湯前中～多良木高～上武大。ビジネス情報学部２年生。駅伝部所属。ことし１月２、３日に行われた箱根駅伝で３区に出場し、区間10位を記録。本町初の箱根ランナーとなった。多良木高時代には全国高等学校総合体育大会（インターハイ）男子800㍍で８位入賞、1500㍍でも全国大会に出場。大学進学後も実力を伸ばし続け、同校の主力選手に成長。5000m：14分16秒28。10000m：29分24秒46。ハーフ：65分48秒。

上武大学…群馬県伊勢崎市に本部を置く私立大学。平成16年４月、陸上部から長距離部門の選手たちが独立する形で駅伝部を創部し、平成20年以降９年連続で箱根駅伝に出場する駅伝の強豪校。現在部員は70人で九州出身の選手も多数。チームの目標は初となるシード権獲得。太田黒さんは自身のチームを「監督やコーチと気軽に相談ができ、先輩後輩のへだたりもないコミュニケーションの良いチーム」と話す。

５㌔を折り返し、さらにスピードを加速させるハーフ男子の選手たち

第５回公認奥球磨ロードレース大会

６部門451人が冬の奥球磨を力走
栗原泉選手が女子５㌔で中学生１位

第５回公認奥球磨ロードレース大会は１月15日、水上中学校をスタート、水上村役場をフィニッシュとするコースで開かれ、一般男・女ハーフマラソンの部や高校生男子10㌔の部など６部門で開かれ、451人が完走しました。中学女子５㌔に出場した栗原泉（いずみ）選手（湯前中３年＝上染田）は同部門で１位となる快走をみせました。

大会は湯前町、多良木町、水上村、熊本県陸上競技協会が主催。中学生男子（５㌔）、女子フリー・中学生（５㌔）、一般男女（ハーフ）、高校生男子（10㌔）の順番でレースが行われました。ハーフマラソンには全国で活躍する実業団・大学の選手33人を招待。国道219号線を通るコースで行われ、トップランナーたちによる熱戦を一目見ようと沿道には多くの観客が駆けつけていました。

ハーフ男子ではトヨタ自動車の藤本拓（たく）選手が１時間03分51秒のタイムを記録し１着でフィニッシュ。４年連続の出場となった埼玉県庁の川内優輝（ゆうき）選手は６位でゴールしました。昨年度新設されたハーフ女子では、名城大学の赤坂よもぎ選手が１時間12分49秒のタイムで大会新記録を樹立しました。各部門８位以内の入賞者と「チーム特別賞」の受賞チームには賞状とメダル、３町村の特産品の詰め合わせなどが贈られました。強豪の大学に進んだ本町出身の選手や地元中・高校生も出場。沿道から大きな声援を受けて力走していました。

各県の強豪チームがしのぎをけずった高校男子10㌔

〈競技結果〉※太字は町民と本町出身者

▼ハーフ男子
①藤本　拓（トヨタ自動車）１時間03分51秒
②今井　篤弥（トヨタ自動車九州）１時間04分01秒
③大津　顕杜（トヨタ自動車九州）１時間04分07秒
④西　純平（旭化成）
⑤中平大二朗（トヨタ自動車九州）
⑥川内　優輝（埼玉県庁）
⑦坪内　淳一（黒崎播磨）
⑧小早川　健（東洋大学）
㊻上田　結也（創価大＝野中田１）

▼ハーフ女子
①赤坂　よもぎ（名城大）１時間12分49秒
②堀江　美里（ノーリツ）１時間12分52秒
③小﨑　まり（ノーリツ）１時間14分49秒
④久保　愛結美（鹿児島銀行）
⑤唐沢　ゆり（日体大）
⑥小指　有未（ワコール）
⑦下山　かなえ（ノーリツ）
⑧齊藤　真希（肥後銀行）

▼高校男子・10㌔
①亀鷹　雄輝（九州学院）30分17秒
②吉里　駿（大牟田）30分19秒
③永井　大育（樟南）30分24秒
④成瀬　隆一郎（大牟田）
⑤大藏　洋人（九州学院）
⑥牧瀬　圭斗（白石）
⑦佐藤　映斗（九州学院）
⑧木付　琳（大分東明）
⑩森川　勝己（南稜＝下村）
⑬大平　修市（多良木＝浅鹿野）
⑭大山　亮仁（多良木＝田上）

▼女子フリー・５㌔
①秋山　祐妃（熊本信愛女学院）16分45秒
②福田　詩音（東海大付属福岡）16分52秒
③境田　真夕（千原台）16分58秒
④岡本　亜依里（ルーテル学院）
⑤嶋永　有紗（熊本信愛女学院）
⑥清水　遥加（出水中央）
⑦岡本　佳奈絵（ルーテル学院）
⑧菅田　雅香（東海大付属福岡）
⑪栗原　緑（千原台＝上染田）
㉛多田　華歌（人吉＝馬場）
㊳吉村　柚花（人吉＝浅鹿野）

湯前町民の声援を受けて力走する上田結也選手

湯前出身者の声

上田（うえだ）　結也（ゆうや）選手
（創価大１年＝野中田１）

ハーフ男子　56位／１時間09分55秒

今回のレースでは先頭集団にできるだけついていって、後半どれだけ粘れるかを試した。10㌔の折り返しでは余裕があり、15㌔くらいまでは先頭集団に食らいついたが、脱水症状気味で体が動かなくなった。強豪の実業団の選手たちと競い積極的なレースができたことは収穫になった。冬場にしっかりとトレーニングを積んで、スタミナに磨きをかけたい。

※写真中央

栗原（くりはら）　緑（みどり）選手
（千原台高３年＝上染田）

高校女子（５㌔）11位／17分26秒

10位以内を目標にして走った。11位だったが、折り返しから体が思うように動かず内容はあまり良くなかった。沿道から「栗原頑張れ！」という声が聞こえてとても力になった。郡市対抗女子駅伝では区間３位以内を目指して頑張りたい。

栗原（くりはら）　泉（いずみ）選手
（湯前中３年＝上染田）

中学女子（５㌔）１位／18分00秒

中学生で１位になることと17分台を出すことの二つを意識して走った。調子はあまり良くなかった。タイムも18分ちょうどで目標には届かなかったが、後半からペースを上げることができ、１位を獲得できてよかった。

（ページ14 続き）

▼中学男子・5キロ
①吉富　純（大牟田田隅）16分06秒
②園木　大斗（鹿南）16分11秒
③岩川　智也（あさぎり）16分18秒
㉙中田　光（湯前）
㉜中田　翔（湯前）
㊺福屋　渉（湯前）
㊻稲森　隼都（湯前）
㊿篠宮　光陽（湯前）
58北崎　雄一郎（湯前）
60中田　優輝（湯前）
63星原　海斗（湯前）

▼中学女子・5キロ
①栗原　泉（湯前）18分00秒
②藤村　光紀（山鹿）18分15秒
③富野　汐英流（山鹿）18分24秒
㉖中田　星来（湯前）
㉝黒木　歩希（湯前）
㊴中華　美咲（湯前）
㊹秋山　菜々美（湯前）
㊺浜崎　雪乃（湯前）
㊻庄籠　カンミ（湯前）

〈チーム特別賞〉
※上位3人の合計タイム

▼ハーフ男子
①トヨタ自動車九州
②埼玉県庁
③黒崎播磨

▼高校男子
①九州学院
②大牟田
③大分東明

▼高校女子
①熊本信愛女学院
②東海大学付属福岡
③ルーテル学院

▼中学男子
①山鹿
②大牟田田隅
③人吉第二

▼中学女子
①山鹿
②人吉第二
③南阿蘇
④湯前

※ハーフ女子は出場者数が少ないため該当なし

4年連続の出場となった埼玉県庁の川内優輝選手は6位でフィニッシュ

湯前出身者の声

多田　華歌選手
（人吉高1年＝馬場）
女子フリー（5キロ）61位／19分47秒

中学2年生以来の出場で、そのときよりタイムを伸ばし楽に走ることができた。自己ベスト更新を狙っていたが、後半がきつかった。次回5キロを走るときには自己ベストを更新できるように頑張りたい。

中田　光選手
（湯前中2年＝田上）
中学男子（5キロ）29位／18分11秒

17分台を目標に走ったが、折り返しからペースを上げすぎた。人吉春風マラソンでも5キロを走るので、17分台を出せるようにこれから練習を頑張りたい。

ハーフ女子で大会新記録を樹立した名城大学の赤坂よもぎ選手

ハーフ男子の部を制したのはトヨタ自動車の藤本拓選手

男子第67回全国高等学校駅伝徒競走大会

全国の舞台に吉村晃世選手が出場

主将としてチームを引っ張り、2年連続での全国大会出場を果たした吉村選手（左）

男子第67回全国高等学校駅伝徒競走大会が12月25日に京都府で開かれ、宮崎県小林高校に在学する吉村晃世選手（同校3年＝浅鹿野）が3区に出場しました。

レースは都道府県予選会を勝ち抜いた47校が出場し、日本一の高校を決める大会。男子は7区間42.195キロのコースで開かれました。吉村選手がキャプテンを務める小林高は宮崎県予選で、すべての選手が区間賞を記録するなど、圧倒的な走りをみせ2時間07分35秒となるタイムで優勝。19年連続55回目となる全国大会出場をつかみました。

吉村選手は予選会、全国大会ともに3区（8.1075キロ）に出場。全国大会では13位でたすきを受け、区間15位となる24分40秒のタイムを記録。小林高は2時間07分03秒の15位でゴールしました。吉村選手は「3年間、この大会で3位以内に入賞することを目指してやってきた。13位でたすきを受けて、前にいる選手を一人でも多く越そうと思って走ったが、悔しい結果になった。大学では1年生から箱根の舞台に立てるよう頑張って、この悔しさをはらしたい」と話していました。

湯前中学校グラウンドで恩師の久間章弘監督と走る吉村選手と上田結也選手（左）。大学の舞台で活躍するために帰省中も練習を重ねている

東海大学陸上教室

地元中高生が東海大の監督・学生と交流

第5回奥球磨公認ロードレースに出場した東海大学陸上競技部中・長距離ブロックの監督や選手が前日の1月14日に多良木高校グラウンドで陸上教室を開き、地元中・高校生約80人に体幹を鍛えるストレッチや正しいフォームなどを教えていました。

地元の中高生たちが強豪の駅伝部員らとかかわる機会をつくり、スキルアップや陸上への意欲を高めてほしいと奥球磨ロードレース実行委員会と湯前、多良木、水上3町村が主催、（公財）B＆G財団が後援。東海大は1月2、3日に開かれた箱根駅伝で総合10位となりシード権を獲得している強豪校で、教室では両角速駅伝監督や九州出身の選手を含む7人が講師を務めました。湯前中などの管内の中学生や高校生の長距離を専門とする陸上部員が参加。参加者たちは東海大で日ごろから行われている体幹トレーニングを体験したり、両角監督から「走り方の実践」の指導を受けて足さばきや腕ふりなど正しいフォームで走る練習をしたりました。

学生コーチで主務を務める西川雄一朗さん（東海大3年＝九州学院高出身）は「体幹トレーニングや正しいフォームで走ることの大切さを伝えたが、何よりも走ることの楽しさを感じてほしい」と話していました。

最後に参加者は六つのグループに分かれ、箱根駅伝で実際に使われた白紺ツートーンのたすきを使ってリレーを行い、楽しそうに300メートルのトラックを走っていました。

↑両角監督が参加者に正しいフォームを指導

箱根駅伝で実際に使われたたすきを使ってリレー→

新たな議会構成で任期4年がスタート

議員の任期満了にともなう一般選挙後、初めての議会が11月30日に開かれ、正副議長の選挙、各常任委員会委員の選任などの議会構成が行われました。任期４年間、住民の代表として、町の政策の提案・決定、行財政運営などが適法・適正・公平・効率的に行われているかを批判し監視していきます。※批判とは非難や批評ではなく、誤った箇所や悪い部分を、根拠を示しながら論理的に指摘し、改善を求めることです。

◎議会構成

議　　長	副　議　長
山下　　力	倉本　　豊

常　任　委　員　会

常任委員会	委員長	副委員長	委員	委員	委員
総　　務	森山　　宏	黒木　龍次	黒木 喜巳男	高橋　一雄	味岡　　恭
厚生文教	椎葉　弘樹	高橋　一雄	金子　光喜	森山　　宏	遠坂　道太
経済建設	味岡　　恭	遠坂　道太	倉本　　豊	黒木　龍次	椎葉　弘樹

議　会　運　営　委　員　会

委員長	副委員長	委員	委員	委員
黒木 喜巳男	味岡　　恭	倉本　　豊	森山　　宏	椎葉　弘樹

議選監査委員

黒木　龍次

人吉球磨広域行政組合

議　員	倉本　　豊
議　員	椎葉　弘樹

球磨郡公立多良木病院企業団

議　員	味岡　　恭
議　員	遠坂　道太

上球磨消防組合

議　員	金子　光喜

新たに任期４年をスタートさせた議員ら

初議会の内容

①臨時議長により本会議を開会、仮議席の指定

臨時議長は出席議員の中で最年長の議員が務め、臨時議長が、当選回数の少ない順に仮の議席を指定して議事を進行します。

②議長の選挙 ※事前の当選議員懇談会時に、議長の選挙にかかる所信表明を実施しています。

選挙方法は「投票」と「指名推選」がありますが、本議会では正副議長の選挙を投票で行いました。

【開票結果】
山下　力……… ５票　／　黒木　喜巳男……… ４票　／　高橋　一雄……… １票

③議長による議席の指定

議長が当選回数の少ない順に議席を指定します。議長の議席は最終10番となります。

④会期を11月30日の１日間と決定

会期とは議会が法的に活動できる期間です。

⑤副議長の選挙

【開票結果】
倉本　豊……… ５票　※抽選により当選　／　金子　光喜……… ５票

⑥各常任委員の選任

議会運営申し合わせにより、事前に各議員の希望をとって、議長が調整を行い、本会議にはかって指名しました。

⑦休憩中に各常任委員会を開催、正副委員長を互選

互選……… 委員の中から互いに選び合うことです。

⑧議会運営委員の選任

議会運営申し合わせにより、議長が、副議長、常任委員長（３人）、それ以外の議員から１人、計５人を本会議にはかって指名しました。

⑨休憩中に議会運営委員会を開催、正副委員長を互選

⑩一部事務組合議会議員の選挙

一部事務組合議会議員の選挙は指名推選で行いました。

⑪町長から、監査委員（２人）の選任同意が求められ、両名とも同意

町の場合、法律で原則２人の監査委員（識見監査委員、議選監査委員）となっています。町長から議会に対して議選監査委員推薦の申し出があり、当選議員懇談会時に立候補者を募ったうえで推薦しました。

【監査委員】
辻　隆友（識見監査委員）　／　黒木　龍次（議選監査委員）

トピックス

議会改革調査特別委員会を設置

12月定例会の最終日（15日）に、議員発議で議会改革調査特別委員会の設置が決議されました。

民意を反映する合議体としての機能を強化し、より良いまちづくりが行えるよう、議会みずからの改革・改善を検討していきます。進捗状況は議会だよりでお知らせします。なお、委員会構成は次のとおりです。

◎議会改革調査特別委員会

委員長	副委員長
黒木　龍次	椎葉　弘樹

委員	委員
遠坂　道太	高橋　一雄
森山　　宏	倉本　　豊
味岡　　恭	黒木 喜巳男
金子　光喜	

編集後記

議会構成（役職の決定）は、どのように決めているのか？という住民の皆様の疑問にお答えし、今回は初議会の様子を掲載しました。今後は、住民に見える議会を目指して、議会だよりなど活用して、積極的に情報発信していきます。　◆編集　事務局

12月19日（月）

戦時中の沖縄からの疎開を探る
琉球大学教授らが住民に聞き取り調査

住民から当時の様子を聞き取る武井準教授（左手前）ら

第２次世界大戦中に沖縄から熊本に疎開した人を調査する琉球大学法文学部の武井弘一準教授らが12月19日、多良木高校（粟谷雅之校長）を訪れ、当時の様子を知る地元住民らと意見交換を行いました。

武井準教授は多良木町にある「太田家住宅」の古文書調査をしたことがきっかけでこの地域に来訪。昨年から多良木高も調査に協力し、卒業台帳に沖縄から疎開した人の名前が載っていることなどが判明していました。今回は、武井準教授や社会人類学を専門とするソウル大学のチョン・ギョンス名誉教授などが同校を訪れ、当時多良木高等女学校に通っていた東キヨ子さん（87＝野中田２）ら住民やお寺の住職など11人と面会し、当時の様子を聞き取りました。

それぞれ自己紹介を終えたあと、一人ずつ当時の様子を語っていきました。「家族連れの疎開が多く、その後大学に進学して教師になった人も多い」「お礼品を贈ってもらったり、沖縄に招待してもらったりして、戻られたあとも交流が続いている」「お寺には複数の家族が暮らしていた」などと次々に意見が交わされました。武井準教授は「貴重な意見が聞けた」と住民らに感謝を伝えていました。

12月22日（木）～２月末

湯前駅にイルミネーションが点灯

期間限定でライトアップされた湯前駅と駅前のモニュメント

湯前駅のイルミネーションが12月22日から点灯し、駅を訪れた人たちが写真を撮るなどして楽しんでいます。

イベントは湯前駅と町のＰＲをするために湯前町商工会（伊藤昌一会長）が主催。昨年、湯前駅前の道路が改修されたことを記念しイルミネーションを点灯。今回は２回目の開催となりました。

約８０００個の電球が駅舎や駅前のモニュメントなどに飾られ、午後６時から午後10時まで点灯しています。現在、湯前駅よこの「湯～とぴあ」まで延長し、２月末までライトアップされる予定です。

初日には駅周辺で３０００個のバルーンを使ったイベントや宝探しなどが予定されていましたが、雨で中止に。しかし、駅前には写真を撮ったり、駅舎をのぞく人がたくさんいました。伊藤会長は「今は駅前が中心だが、今後イルミネーションを延長させて『夜の散策』も楽しめるようになれば。各種イベントにもつなげていきたい」と話していました。

12月23日（木）

165人が心の交流
あゆみの会クリスマスのつどい

幻想的なキャンドルサービスで心を一つにした

ボランティアグループ「あゆみの会」（地内豊子代表）のクリスマスのつどいが12月23日、農村環境改善センターで開かれ、知的・身体・精神障害者やその家族、ボランティアスタッフ１６５人がキャンドルサービスやレクリエーション、食事などを楽しみました。

同会は地域の障害者理解を深めるために設立され、イベントの開催は22回目。精神障害者人吉球磨地域家族会の会員など郡市内外から参加者が集まりました。参加者は「アンサンブル楓」による音楽、フラダンス、体操などのレクリエーションを楽しみ、プレゼント交換や、幻想的なキャンドルサービスで交流を深めました。地内代表は「笑顔あふれる心の交流会となった。町からの支援などたくさんの人に支えられていることを改めて実感した。ゆっくり障害者への理解が深まるよう活動を続けていきたい。ぜひ町民の皆さんにも会をのぞいていただけたら」と話していました。

１月14日（土）～３月19日（日）

奥球磨の「旬」の味覚はいかが？
奥球磨どんぶりフェア2017

こだわりのどんぶりを笑顔でPRする販売者たち

「奥球磨どんぶりフェア２０１７」が１月14日から始まり、湯前、多良木、水上３町村の飲食店９店舗が地域の特産などを使ったこだわりの10品を販売しています。

地域のＰＲや物産の振興を図るために３町村が連携する奥球磨広域連携推進協議会（鶴田正巳会長）が主催し、今回で13回目の開催。開催に賛同した飲食店９店が参加し、期間中に球磨産の牛肉や鹿肉、野菜などを使ったこだわりのどんぶり10品が提供されます。スタンプラリーの特典つきで、９店中２店でスタンプを集めて応募ができる「スタンダードコース」と全９店のスタンプを集めて応募ができる「プレミアムコース」があり、どちらも抽選で商品が当たります。期間は３月19日までで、本町からはレストラン徳丸、ゆのまえ温泉「湯楽里」が参加。１月12日に湯前町保健センターで記者発表が行われ、それぞれがこだわりを紹介していました。

１月19日（木）

ストレスとの付き合い方を学ぶ
健康教育講演会

ストレスを感じたときの対応をアドバイスした興野さん

健康教育講演会が１月19日に湯前中学校体育館で開かれ、湯前中全校生徒と湯前小学校５、６年生約１４０人がストレスや悩みとの付き合い方について学びました。

思春期を迎え、悩みを抱えがちな児童、生徒がストレスとの付き合い方を学ぶために開催。人吉市の吉田病院で医長を務める興野康也さんを講師に「困ったときどうしよう！～ストレス対応～」の演題で講演が行われました。

興野さんは学校生活の具体的な例を挙げながら、どんな対応をすれば良いのか分かりやすく説明。「自分が感じるストレスをだれかに話したり、紙に書き出したりしてみること。ある程度のストレスは成長のために必要だが、顔色などに変化があるので、悩んでいそうな人がいたらぜひ声をかけて」と話し、講演を聞いた久保竜矢くん（湯前中３年＝上染田）は「３年生は受験を控え、ストレスも多くなっているので、今回聞いた対処法を実践していきたい」と話していました。

読書のススメ

中央公民館図書室

壮大なスケールで語られる魂の物語

女用心棒バルサは、25年ぶりに生まれ故郷に戻ってきた。おのれの人生のすべてを捨てて自分を守り育ててくれた、養父ジグロの汚名を晴らすために。短槍にきざまれた模様を頼りに、雪の峰々の底に広がる洞窟を抜けていく彼女を出迎えたのは―。

闇の守り人
上橋 菜穂子（著） 新潮社

被災地の声でつづる、復興を支えた「食」のチカラ

災害復興期の「食」を「復興ごはん」と捉え、大災害を乗り越えた人たちが、復興の過程でどんな「ごはん」を記憶に留めているのか「復興ごはん」を通じて、企業やそこにいる人間がどのように被災地の人に寄り添ったのか。被災地域で社会課題の最前線に立ち向かう人々の「声」をつむぐ一冊。

復興ごはん
味の素グループ東北応援ふれあいの赤いエプロンプロジェクト（編集） 小学館

パンダの秘密が明らかに…？

いま、明かされる「パンダのひみつ」。あなたは、パンダ専用の銭湯があるのを知っていますか。実は…あるのです。え～っ、まさか、そうだったのか…。あなたの知らないパンダの世界がここにあります。

パンダ銭湯
tupera tupera（著） 絵本館

組織と個人間の息詰まる緊張感、ミステリ界を席巻した渾身作

昭和64年に起きたD県警史上最悪の事件を巡り警務部と刑事部が全面戦争に突入。その狭間に落ちた広報官・三上はおのれの真を問われる。

64（ロクヨン）上
横山 秀夫（著） 文藝春秋

〇平日　8：30～17：00
〇土日・祭日　9：30～17：00
※貸出期間は２週間で、一人５冊まで。

［お問い合わせ］中央公民館
TEL0966-43-2050

1月のごみ情報　エコで体も財布もぽかぽかに

ECOLOG

12月末人口 4,084人

区分	先月分	今月分	昨年の12月分	増減
燃えるごみ（kg）	57,530	63,280	70,520	−7,240⬇
燃えないごみ（kg）	3,050	6,420	5,480	+940⬆
リサイクル品（kg）	13,130	19,140	19,660	−520⬇
粗大ごみ（kg）	200	1,090		
有害ごみ（kg）	30	120		

厳しい寒さに暖房器具は欠かせません。体にも地球にもお財布にも優しい使い方をしてみませんか？

エアコン・ファンヒーター
★室温は２０度を目安に、必要なときだけつけましょう。　★フィルターは月１～２回清掃を。　★カーディガンや靴下で体感温度アップ！

お風呂
★みかんの皮を乾燥させて浮かべれば、ごみも活用でき体も温まり一石二鳥！
★３８度ぐらいのぬるめのお湯にゆっくりつかると湯冷めしません。

こたつ
★床にカーペットや断熱シートを敷く。　★掛け布団を厚めに。

家族で鍋をつつくのもエコですね♪
皆さんも無理のない程度にチャレンジしてみてください！

リサイクルステーションからお願い

リサイクルステーションへの燃えないごみの持ち込みが増えています。
マナーを守って、ごみの分別をしてください。

【燃えないごみに出すときの注意点】
・カセットボンベ、使い捨てライター、スプレー缶は、中身を使い切ってください。
（カセットボンベ、スプレー缶は、穴を開けてください）。
・陶器、ガラス類で割れているものは、厚紙などで包んでください。
・「水銀０使用」と表示のある乾電池、電球、豆電球は、燃えないごみへ出してください。
リサイクルステーションへ持ち込まないようお願いします。

※２月の不燃物収集は**1、15日**です。（第１・３水曜日）

湯前のよか✶とこ発見！
～地域おこし協力隊です～

今月のリポーター ✶ 射場（いば） 絵美（えみ）

校門の前に作られた門松は一目で季節を感じさせてくれます

寒さに負けず、子どもたちのために笑顔で作業をする保護者

手作りの「ありがたみ」

年末年始、町内のいたるところに門松が飾られていました。皆さんはいくつ見かけましたか？

12月23日に湯前小学校で門松作りがあり、お手伝いをさせてもらいました。門松作りは、毎年行われるＰＴＡ活動の一つで、材料の松・竹・葉ボタン・笹・南天はＰＴＡの役員が町の人に協力してもらって集めているそうです。まずは竹の長さの調整から始めます。３本の大きな竹を、長さがすべて同じにならないようにカット。ドラム缶に縄とこもを巻き、門松鉢を作ります。そこに砂を入れて竹を立て、全体のバランスを見ながら材料を飾りつけ、松や竹、笹の緑の中に南天の赤、葉ボタンの白と紫が加わり、とても華やかに仕上がりました。この日は雨が降ったりやんだりしていたので、カッパを着て作業しましたが、門松が完成するころには晴れ、空には虹がかかっていました。

私は湯前に来て初めて門松作りを体験。簡単にできることではないため、とてもいい経験になりました。

行事や季節を感じられる手作りの門松が学校にあること。いつか子どもたちがその「ありがたみ」に気づき、この伝統が次の子どもたちに続いていくことを願います。ことし一年、皆さんが笑って楽しく過ごせますように…。

今月のゆのまえがお　池田（いけだ）　タメ子さん（75=下村）

昨年６月から下村婦人会の代表に就任し、漬け物の魅力を各地へ伝えている池田さん

「笑顔がすてき」「何かＰＲしたい」などたくさんの人を待っています！
（総務課　地域おこし協力隊まで　TEL 0966-43-4111）

ひとこと「長年受け継がれてきたこだわりの漬物を食べにきてください♪」

ほかにもゆのまえ情報がいっぱい！くわしくは湯前町総合情報サイト、ゆのまえかじり内の「ゆのまえがお」へアクセス！

https://www.yunomae-kaziri.com/
（ ゆのまえかじり と検索してもアクセスできます）

「 厳しい寒さの対策は…？ 」
協力隊のゆのまえ暮らし（隊員がゆる～く近況報告）

本格的な冬が到来。湯前をはじめ、熊本の冬は１、２月が本番ですね。年末・お正月が異様に暖かかったので、年明けからの寒さが身にこたえます。ちなみに私は冷え性。今時めずらしく、しもやけもできます。かわいそうな手足で、私なりに色々と対策はしていますが治らず…。民間療法でもいいので「これオススメ」というものがあれば、ぜひ教えてください！温泉はとても温まるので、ことしも「湯楽里」にせっせと通おうと思っています。常連さんとのおしゃべりも楽しみです（笑）（射場）

個人会員、支部復活OK！

入ってみらんね、婦人会に

婦人会だより　No.41

湯前町地域婦人会
会長　橋田　實子

■12月～１月の行事

12月13日(火)　移動支部長会

12月20日(火)　宮崎市地婦連との交流会
（相良村　茶湯里「ふるさと館」）

1月4日(水)　湯前町成人式
成人者へ「湯楽里」の入浴券を贈呈

1月7日(土)　郡婦連として「熊日緑のリボン賞」授賞（熊日本社）

1月13日(金)　農芸学院成人式

賞状と副賞の掛時計です

これから

2月11日(土)　交通安全母親推進大会（県婦人会館）

2月12日(日)　モデル事業実践発表会（県婦人会館）

お知らせ

3月5日(日)　会員研修
町のマイクロバスにて町内建造物や文化財などを見て回ります。
支部会員、個人会員OKです（午前中）。

戸籍の窓

平成28年12月１日～平成28年12月31日

ご結婚おめでとう

♥
井村　貴志　（熊本市）
大中　みゆき（古城）

ご冥福をお祈りします

中田　清二　（野中田2）
谷口　勇　（上里1）
岩本　博　（中猪）
吉田　八郎　（中猪）
永山　トメ　（上猪）
右田　次子　（田上）

香典返し

岩本　勝幸　（浅鹿野）
中田　貴美子（野中田2）
永山　哲男　（上猪）
吉田　タミ子（中猪）
右田　孝志　（田上）

保健師だより

成人用肺炎球菌予防接種はすんでいますか？

肺炎は日本人の死因第３位。肺炎で亡くなる人の多くが65歳以上です。
肺炎の重症化を予防するためにも対象年齢の人はぜひ接種をおすすめします。

平成28年度に対象になる人

年齢	生年月日	対象者	接種済み
65歳	昭和26年４月２日 ～ 昭和27年４月１日	80人	45人
70歳	昭和21年４月２日 ～ 昭和22年４月１日	63人	37人
75歳	昭和16年４月２日 ～ 昭和17年４月１日	75人	47人
80歳	昭和11年４月２日 ～ 昭和12年４月１日	59人	34人
85歳	昭和６年４月２日 ～ 昭和７年４月１日	49人	24人
90歳	大正15年４月２日 ～ 昭和２年４月１日	35人	17人
95歳	大正10年４月２日 ～ 大正11年４月１日	８人	３人
100歳	大正５年４月２日 ～ 大正６年４月１日	２人	０人

対象者371人中、207人が接種しています（H28.12.31現在）。かかりつけ医での接種となり、自己負担額は2700円です（全額で8734円）。接種の期間は平成29年３月31日までです。定期接種の機会は生涯に１回だけです。ぜひこの機会に受けましょう。申し込んだが問診票（紫色）をなくした、医療機関を替えたい、年度はじめに申し込みをしていないなどありましたら接種できるように配慮しますので保健センターへご相談ください（℡0966-43-4112）。

幼児の保護者の皆さんは母子手帳で接種の確認をお願いします

小児用肺炎球菌、ヒブの接種は初回接種後７～13カ月後に追加の接種が必要になります。最近、追加の接種のもれが多いようです。幼児の保護者の皆さんは母子手帳での確認をお願いします。期間が過ぎた、医療機関を替えたいなどの分からないことも保健センターへご相談ください。

〈湯前町保健センター　　文責　中西〉

［今月の表紙］
「いただきます！」と元気に手を合わせる椎葉富雄さんと孫の敦陽くん４歳。表紙と特集６ページは人吉球磨地域10市町村で掲載されます。今回はふるさとの味を見直し、守り続ける大切さを考えました。

編集後記

editiorial note

▼箱根駅伝に出場した太田黒さんを始め、全国の舞台で活躍する湯前出身のランナーが年末年始に帰郷。「今しかない」と取材をさせていただきました。来年箱根出場に期待がかかる選手も増え、ますます陸上から目が離せません。これからも湯前の人の輝きを皆さんにお伝えしていければと思います。
▼今回は球磨郡市10市町村による合同特集でした。第３弾はふるさとの味。10市町村共通の魅力や課題を捉え「人吉球磨はひとつ」を合言葉に記事を作成。全市町村同じ記事が掲載されます。各町村のホームページにも掲載されていますので、ぜひのぞいてみてください。
▼天気予報に雪マーク。急に厳しくなった寒さ。奥球磨ロードレースの取材では手がかじかみ、思うようにカメラの操作ができませんでした。最近まで気づかなかったのですが、どうやら私は冷え性のようです。手袋がほしいと思うこの頃…。事前の準備はどんなときでも大切だと思わされました。㊪

yunomae 02
Vol.428
FEB.2017
湯前町広報誌

第 17 回地域伝統芸能祭り、東方太鼓踊り出演―。

湯前町指定無形民俗文化財　日本遺産認定

JAPAN HERITAGE
日本遺産

題字　中原丈雄

開催日
2月26日(日)

開　演
午後2時30分～

場　所
NHKホール

入場無料 ※応募により抽選
(東京都渋谷区神南2-2-1)

放　映
3月18日(土)
NHK BS 午後3時～

インターネット　http://www.jafra.or.jp/matsuri/

主催:地域伝統芸能まつり実行委員会　後援:総務省　文化庁　観光庁　NHK

※ご意見投稿はこちらから

活き活きと輝き、誇れるまちゆのまえ

広報ゆのまえ２月号

TEL 0966-43-4111　FAX 0966-43-3013
URL http://www.town.yunomae.lg.jp/

発行／湯前町役場総務課　〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1
発行日／平成29年２月１日　印刷／(有)町田印刷